科学技術振興機構　サイエンス・パートナーシップ・プログラム
動物園大学―野生動物学のすすめ―　Vol.2

# 【託された命から学び・考える～命と共生～】実施報告

○開催日時：平成２５年６月２９日（土）13:30～15:30
○参加者：京都市立高野中学校　生徒９名，引率２名
　　京都市立大原学院　　生徒１名
○活動内容
　京都市動物園野生鳥獣救護センターでは，傷ついたり病気にかかったりしている野生の鳥類と哺乳類の救護活動を行っている。京都市内で救護された野生の鳥類と哺乳類について，治療を行ない，回復して自然復帰ができるようになると京都府の職員によって適切な場所に放される。平成２４年度は鳥類５０種４１７羽，哺乳類１０種４７頭の６０種４６４頭羽が救護されている。
　しかし，実際に自然復帰できるのは，救護されたうちの４割に満たない。残りの６割ほどは死亡しているのが現状である。なお，死亡原因は様々だが，人の社会生活が関わっている被害（窓ガラスへの衝突やテグス被害等）で亡くなるケースも少なくない。また，野生鳥獣救護事業は１９７５年から京都府と京都市が協力して行っているが，今でも繁殖期には誤認救護（巣立ち雛等の本来は保護する必要がないが，正しく生態を理解していないことで保護してしまうこと）が多くある。
　こうした現状を理解・把握するとともに，救護センターで亡くなった鳥獣の解剖を通して，動物の形態や生態，自然環境下で起きていることを調査した。この講座をきっかけに身近な地域の環境に目を向けるとともに，動物たちとの共生について考えるきっかけとした。

まずは，動物図書館視聴室に集合し，講座担当者からのプログラム説明。

京都市動物園野生鳥獣救護センターでの活動内容や実績及び解剖についての説明を行った。

次いで場所を管理事務所解剖室に移動し，解剖の準備を行う。参加者がエプロン・手袋・マスク・ゴーグルを装着。

そして，解剖を担当する鳥獣を決め，解剖台に向かいます。

外表検査の際に，鳥獣の形態や生態について解説。

剥皮し，皮下の観察を実施。フクロウでは頭蓋骨骨折が認められた。

ムササビの胸腔・腹腔の観察。

参加者は思った以上に嫌がらずに取り組めていました。実際に自分の目で,体で感じたことで,新たな視点で環境のことや動物のことを考えてくれることを期待して講座を終了としました。

なお，この企画は今後も続けたいと思います。ご希望の学校がありましたら，京都市動物園までご相談ください。連絡先は以下のとおりです。

京都市動物園　生き物・学び・研究センター
Tel：075-771-0210（代）
mail：kyotoshi-doubutsuen@city.kyoto.jp

生き物・学び・研究センター
センター長　　田中正之
研究教育係長　和田晴太郎